



～ AIとの上手な付き合い方はどうすればいいの？ ～

便利だけど…最後に判断するのはAI？いえいえ、やはり人間です！



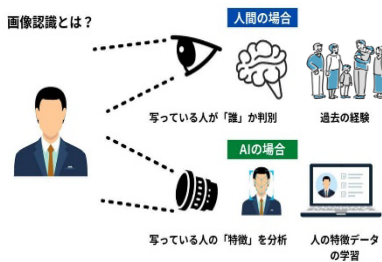
AIって何？



人工知能のことで、人間のように文章を作ったり、質問に答えたり、画像を作ったり、情報を整理したりするコンピューターの技術です。

AIはこんな事が出来るのです！

大量の画像データを読み込ませ、AIに覚えさせ、ある検査対象の画像データに何が写っているかを認識させる。
その機能から、顔認証や自動運転に活用したり、工場の製品などで異常なものを見つけ出すことも出来たり。
文字を認識させ帳票に反映させることも。他にも、音声認識、言語処理、予測分析もできる。
AIはどんどん進化しています。



ただし！

AIの答えはいつも正しいとは限らない

知識はいっぱい詰め込んでいるけれど鵜呑みにしないで、人間が確認することが大切です。

気を付けたいことは、個人情報を入れないこと、大事な判断をAIだけでは決めないことです。

名前、住所、電話番号、契約内容、家族の詳しい事情は入力しない方が安心です。

医療、保険、法律、お金のことは、AIを参考にしても必ず専門家や信頼のできる人に確認しましょう。



AIとChatGPT

ChatGPT は、米OpenAI社が開発した高度な対話型AIです。

テキストの作成、翻訳、長文の要約、アイデア出し、プログラミングコードの生成など、日常的な質問から専門的な業務まで幅広い用途で活用されています。

使い方

ChatGPTはブラウザまたは専用アプリから利用できます。
公式サイト(ChatGPT)またはアプリストア(App Store/アップストアなど)からアクセスします。
GoogleやAppleなどのアカウント、またはメールアドレスでログインします。
チャット画面に質問や指示を入力(プロンプト)するだけで、AIが自動で回答します。
無料プラン(Free)のほか、より高度な機能が使える有料プラン(ChatGPT Plus)も用意されています。

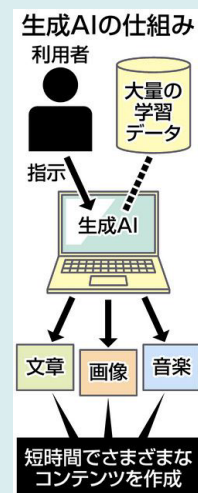
特徴と活用例

- *文章作成・編集：メール文面の作成、ブログ記事の執筆、文章の校正や翻訳が可能です。
- *情報収集・要約：長い資料の要約や、特定のテーマに関する情報整理を得意としています。
- *コード作成：プログラミング言語のコード生成や、エラーの修正案を提案します。
- *音声・画像：音声での会話や、画像生成機能も搭載されています。

～利用時の注意点～

AIは常に完全に正確な情報を返すとは限らないため、重要な情報や事実確認は人間が行う必要があります。
また、個人情報や機密情報を入力しないよう注意しましょう。

AIはこれからもますます身近になります。でも、どれだけ便利になっても、心配な時に声を掛け合えること、誰かが寄り添ってくれることの大切さは変わらないので忘れないようにしたいですね。



2026年6月

今月のテーマ

I 失われた30年から希望ある未来へ

II 諦めていた病に光が差し始めた
～iPS細胞が身近な医療へ～

III “AI”の基礎知識 ～後編～

想いをのせて 感謝 ありがとう

失われた30年から希望ある未来へ

ASADA通信は継続20年となりました。長い間お読みいただきありがとうございます。

この20年間、ASADA通信を発行しながら、私はいつも日本の暮らしの変化を見つめてきました。

景気が良くなったと言われてもなかなか実感が持てない。
物価は上がるのに、収入は思うように増えない。
若い世代は将来に不安を抱え、現役世代は日々の生活に追われ、高齢の方は年金や医療、介護のことを心配される。
いわゆる「失われた30年」という言葉があります。
けれど私は今、その長い停滞の時代から、日本がようやく一歩を踏み出そうとしているのではないかと感じています。

もちろん、政治に対する考え方は人それぞれです。すぐに答えが出るものでもありません。
けれど、今の日本には「このままではいけない」という思いが、世代を超えて広がっているように感じます。

高市内閣には、その閉塞感を打ち破り、日本がもう一度、自信と誇りを取り戻すきっかけをつくってほしい。
物価高に苦しむ暮らしを支え、中小企業が元気になり、働く人の賃金上がり、若い人たちが「日本の未来も悪くない」と考える社会へ。
そんな方向へ、力強く舵を切ってほしいと願っています。

大切なのは、国の政策だけではありません。
私たち一人ひとりも、「どうせ変わらない」とあきらめるのではなく、少しでも良い未来を信じて、できることを積み重ねていくことだと思います。

保険の仕事は39年続けてきて、私が一番大切にしているのは、
「何かあった時に、出来るだけ寄り添って差し上げたい」そう、心に決めて歩んできました。
保険は、入ったらそのままになりがちです。
でも人生は、家族構成も、健康状態も、働き方も、社会情勢も変わっていきます。
だからこそ、私はこの通信を通して、皆さまに「いつでも、何でもご連絡ください」とお伝えし続けてきました。

日本も、私たちの暮らしも、今まさに変わり目にあります。
不安の多い時代ではありますが、変化は必ずしも怖いものばかりではありません。
変わること、守れるものもあります。
変わること、次の世代に渡せる希望もあります。
これからの日本が、もう一度あたたかく、力強く、前を向ける国になることを願って。
そして皆さまの毎日が、少しでも安心に包まれることを願って。
これからもASADA通信をお届けしてまいります。



プロポーズ あの日にかえって ことわりた



株式会社 ASADA オフィス

住所：〒302-0015 茨城県取手市井野台1-7-28 E-mail：officeasada220@gmail.com
TEL：0297-72-2401 FAX：0297-72-6217 URL：https://officeasada.com

代表取締役 麻田 春江



Ⅱ 諦めていた病に光が差し始めた

～ iPS細胞が身近な医療へ ～

今年、医療の世界で大きな希望を感じるニュースがありました。
それは、iPS細胞を使った治療が、いよいよ私たちの暮らしの近くまで来たというニュースです。
iPS細胞という言葉も、一度は耳にされたことがある方も多いのではないのでしょうか。これまでは「未来の医療」「研究室の中の話」という印象が強かったものが、少しずつ実際の医療へと近づいています。



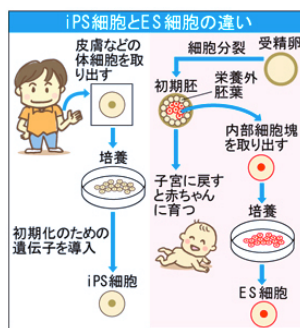
では iPS細胞について振り返ってみましょう！



iPS細胞は2006年にマウスで、2007年にヒトで初めて作製されました。

iPS細胞（人工多能性幹細胞）は、京都大学の山中伸弥教授らの研究グループによって、**2006年**にマウスの皮膚細胞（線維芽細胞）から初めて作製されました。

この細胞は、体細胞に特定の4種類の遺伝子（Oct3/4, Sox2, Klf4, c-Myc）を導入することで、ES細胞（胚性幹細胞）のように多くの細胞に分化できる能力（多能性）と自己複製能を持たせたものです（人工多能性幹細胞）。



その翌年、**2007年**にはヒトの皮膚細胞からiPS細胞の樹立に世界で初めて成功したと報告されました。

iPS細胞は、ES細胞と異なり、受精卵や胚盤胞を使用せず、患者自身の体細胞から作製できるため、倫理的問題が少なく、拒絶反応のリスクも低いとされています。

この発見は再生医療や創薬研究に大きな影響を与え、患者自身の細胞から特定の組織や臓器の細胞を作り出すことが可能となり、難病治療や新薬開発の新しい道を開く技術として注目されています。

世界初の実用化製品

2026年3月、iPS細胞を利用した日本発の再生医療2製品が**世界で初めて厚生労働省より製造販売承認（条件・期限付き）**を受けました。今後は他の難病治療や創薬分野への応用に向けて開発が続いています。

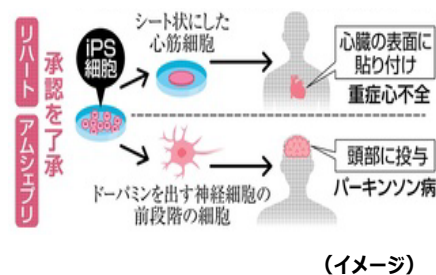
*リハート（心筋細胞シート）

対象：虚血性心筋症による重症心不全
仕組み：他人のiPS細胞から作った心筋細胞をシート状にし、心臓に貼り付けて機能を改善させる
開発：大阪大学発ベンチャーのクオリプス

*アムシェブリー（ドパミン神経前駆細胞）

対象：パーキンソン病
仕組み：iPS細胞から神経細胞のもとになる細胞を育て、脳の必要な部分に移植する
開発：住友ファーマ

iPS細胞を使った再生医療等製品



（イメージ）

治験・臨床研究が進む主な病気

先行する2製品以外にも、以下の疾患に対する臨床研究や**治験**（治験に向けた臨床試験）が進んでいます。

*眼の疾患：**加齢黄斑変性**（すでに臨床研究を実施）

*脳・神経：**脊髄損傷**

*代謝・免疫：**1型糖尿病、再生不良性貧血、頭頸部がんなどの免疫療法**

iPS製品、初の保険適用 パーキンソン病治療で

中央社会保険医療協議会（厚生労働相の諮問機関）は、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を使った再生医療製品で、**パーキンソン病の治療に用いる「アムシェブリー」の公的医療保険適用を5月20日付で承認しました。**

住友ファーマの**アムシェブリー**は、iPS細胞から作った神経細胞で、脳内に移植して運動機能の改善を図ります。厚生労働省が3月、大阪大学発のベンチャー企業「クオリプス」による心臓病患者向けの「リハート」とともに、世界初のiPS細胞を使った再生医療製品として条件・期限付きで製造・販売を承認しました。リハートについても、公的保険適用が今夏にも決定する見通しです。

*備蓄細胞を用いた治療（市販品）

パーキンソン病治療薬**「アムシェブリー」**の公定価格（薬価）は約5,530万円です。
保険適用（1～3割負担）となり、さらに所得に応じた「高額療養費制度」が適用されるため、患者の実際の支払額は月額数万円～数十万円程度に抑えられます。

*患者自身の細胞を用いる治療（オーダーメイド）

患者本人から採取した細胞を使う場合は、製造に時間とコストがかかります。
従来の費用：約5,000万円。

～ 研究・治験段階での費用 ～

有効性や安全性を確認する「**治験**」や「**臨床研究**」に参加する場合、移植などの治療費自体は研究費から支払われるため、患者自身の治療費用負担は基本的に無料です。ただし、通常の検査や併用する薬代は自己負担となります。



山中伸弥理事長と柳井正会長 iPS細胞実用化

大阪に誕生『Yanai my iPS製作所』



“患者自身の細胞”から低コスト・短期間で作製 難病治療へ実用化加速となるか 製造コスト「5000万円→100万円」

京都大iPS細胞研究財団は20日、自分自身の細胞（自家細胞）から人工多能性幹細胞（iPS細胞）を作成し、治療に生かすことを目指す「**Yanai my iPS製作所**」の開所会見を大阪市内で開催しました。

iPS細胞の生みの親で財団の山中伸弥理事長は「健康寿命の延伸に貢献したい。良心的な価格で提供できる準備を進める」と意気込みを語りました。

製作所は、再生医療の研究開発施設や医療機関が集積する未来医療国際拠点「中之島クロス」（大阪市北区）に入居。

開設・運営にはカジュアル衣料品店「ユニクロ」を展開するファーストリテイリングの柳井正会長兼社長が**個人資産で令和3年度から9年間にわたり計45億円を寄付します。**

会見に同席した柳井氏は「画期的な医療改革でワクワクしている。もっと企業や個人からの寄付がなければ、行政からの資金だけではこれからの研究開発はまわらない」と訴えました。

製作所では、血液から採取した自家細胞でiPS細胞を製造し、再生医療の治療薬として実用化を進める「**my iPSプロジェクト**」を推進。

他人の細胞によるiPS細胞に比べ移植後の免疫拒絶反応が抑えられます。

財団によると、製造はこれまで技術者が手作業で行い患者1人あたり5千万円の費用と半年間の期間を要していた。製作所では細胞培養装置14台を導入し工程を自動化。

目標として年間1千人分に対応し、費用を100万円、期間を3週間に抑えるという。

5月29日に国から臨床研究用の細胞製造施設として許可を取得しました。

すでに大学や企業から10件程度の製造依頼に関する相談を受けているといい、令和10年度中にも提供先で臨床試験を始めます。